

はじめに

今日の箇所では私たちがすでに「知っている」こと、つまり確信していることを確認させ、それによって偶像から自分を守り、歩いていくように教えられている。3つの「知っていること」つまり信仰による「確信」を通してどのように歩むべきかを覚えたい。

1. 第一の確信「神から生まれた者はみな罪を犯さないこと」

- ・ 罪を犯さないとは「罪の中に生きない」「罪の中にとどまり続けられない」「罪の生活を続けていない」こと。
- ・ 罪を犯さないのは...
 - 「神の種がその人のうちにとどまっているから」(3:9)。神の種とは神の御性質であり、救われることによって私たちの心は古い罪の性質から新しい神の性質へと造りかえられる。
 - 「神から生まれた方がその人を守っておられ、悪い者はその人に触れることができない」から。自分の力や努力ではなく、キリストに守られている者として自分を守ることができる。
- ・ 罪から救われたがゆえに、サタンは救われた人々を神様から引き離そうとあらゆる策略を用いて激しく誘惑してくるが、罪との戦いや激しい葛藤により傷を負うこともあるが、致命傷とはならない。

2. 第二の確信「世全体は悪い者の支配下にあること」

- ・ 「支配下にある」とは「(その中に)横たわっている」こと。エペソ 2:1 では私たちは罪の中に死んでいた者(罪の中に沈み込み横たわっていた)と言われている。どこに目を移しても、この世は罪の・サタンの支配下であり、かつての自分のように、この世は未だ罪の中に沈みこみ、横たわっている。
- ・ この危機感を持つこと、それはこの世の真実な姿を直視することであり、それによって宣教の使命、絶対的な福音の必要性を再確認することになる。
- ・ この世は悪い者の支配下にあるという危機的かつ絶望的な現実に悲観的になることなく、その現実から目を背けて楽観的になることもなく、主にあって確信に満ちた歩みをすることができる。

3. 第三の確信「神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったこと」

- ・ J.カルヴァンは「知る理解力」について、イエス・キリストによる救いの恵みを明らかにするために、心の中にともされた「光」とし、「この光は、一度つけられるや、以後決して消えない光。」と語る。
- ・ 御子キリストご自身が「すべての人を照らすまことの光」として世に来られ、その歩みと十字架と復活、そのみわざによって神の愛、私たちが罪から救い出そうとされる恵みを現してくださった。
- ・ 今や、キリストに代わって私たちに照らし出す助け主なる聖霊がキリストを通して与えられ、この聖霊の導きによって、私たちがその恵みを知ることができる。
- ・ 人は生涯をかけても神を知り尽くすことはできず、日々主を、その恵みを知り続けることができる。それも単に知識を重ねていくという意味で「知る」のではなく、その恵みを体験し味わうという意味で「知る」のであり、神様のことは神様ご自身が最もふさわしく、正確に教えてくださる。

4. 日々、主を知り続ける歩みを

- ・ 礼拝、交わり、聖餐式休止の決断など、いま私たちが直面している問題は極めて重大で深刻。私たちはこの決断を行政の要請や科学的知見に基づいてなすのではなく、あくまで「神を愛し、隣人を愛する」という教会の信仰的な決断としてなすものである。
- ・ ある牧師が、今回の対応を決断するにあたって「この世のものでありつつ、この世のものでない神の民のあり方が問われている」と語った。これは生涯にわたる鋭い問いであり、これに相応しく応えるために、すでに与えられている聖霊の導きに委ねつつ、みことばのうちに溢れている生き生きとした神の愛と力を日々「知る」歩みをやめないことが必要。

おわりに～生涯にわたって日々主を知り続ける～

私たちの歩みは、生涯にわたって日々主を知り続けることによって守られ、導かれ、祝福される。困難な時の解決だけではない、うれしいときも悲しい時も、苦しい時も平安な時も、いつでも変わるこの無い神様の恵みと愛を「知る」体験をし味わい続けるとき、私たちは主にある祝福に満たされる。